

もり エコ森林通信 vol.5

～秋のエコ森林と生きものたち～



エコ森林通信も vol.5 となりまして、季節は秋となりました。今回は、紅葉の美しいエコ森林の景色と生きもののお話の回とします。

今回のエコ森林隊は紅葉を逃したくない一心で、タイミングを見計らってエコ森林に行きました。

そこは濃い黄色から淡い黄緑のグラデーションの中に赤が少しだけ見られる美しい景色でした。秋にエコ森林に来たのは初めてで、何に出会えるのか、とても楽しみでした。



キバシリ

エコ森林へ続く林道を歩き始めて、すぐに私たちを出迎えてくれたのは『キバシリ』という小鳥でした。鳴き声は鳥というより、虫のようにか細い声で鳴きます。声のした方を注意深く見てみると、木に張り付くように止まっているキバシリを見つけました。一見茶色で地味な鳥に見えますが、よく見るとお洒落な秋色コーディネートです。



キバシリの名前の由来ですが、キバシリは漢字で「木走」と書きます。木の幹に止まり、下から上に向かって餌を探します。上まで登って餌がないと、別の木の下部へ移動します。そしてまた、上に向かって移動します。そうです。木の幹を走っているように見えるから『キバシリ』となったそうです。そんな由来を持つのは鳥だけではなく、長い脚で幹の周りをくるくる回りながら登る『キマワリ(木廻)』という昆虫がいます。『名は体を表す』とはよく言ったもので、鳥屋さん虫屋さんネーミングセンスが一緒です。



キマワリ



エゾライチョウ

さらにエコ森林に近づくと林道脇の草の陰から何かが飛び立ちました。びっくりしましたが、そこは鳥屋の習性で行方を目で追っていると、近くの木に止まりました。よく見ると真っ赤なアイシャドウが特徴の『エゾライチョウ』でした。エゾライチョウは、現在、個体数が減少しており、北海道のレッドリストで準絶滅危惧に指定されている一方で、狩猟鳥となっています。知り合いのハンターさんからは大変美味だと聞いていますが、もっともっと数が増えてくれたら、心おきなく食べられるのではないのでしょうか。

落ち葉が織りなす黄色の絨毯の上をさらに進んでいくと別の生きものに出会いました。この続きと夏のエコ森林隊が「仕掛けたもの」のお話は、次回のお楽しみということにします。

エコ森林の紹介も 5 回目となりました。こんなエコ森林で何か新しい調査方法を試してみたい・現地を見て一緒に何か楽しいことを考えたいという方は、是非ともエコ森林隊にご相談ください。

